

# 未来を見据えた 技術革新によって 持続可能な社会の実現に 貢献します。

古河電気工業株式会社  
代表取締役社長

小林 敬一

Photo Yu Kaida

## 中期経営計画の進捗と今後の見通しは いかがでしょうか？

当社グループでは2016年度より中期経営計画「Furukawa G Plan 2020」をスタートし、重点領域と位置づけたインフラ（情報通信、エネルギー）・自動車分野での事業強化を進めています。2017年度には、この計画における2020年度の財務目標値を前倒しで達成することができたため、中期経営計画を期中改定して、より高い目標を設定しました。引き続き「事業の強化と変革」「グローバル市場での拡販促進」「新事業の開拓加速」を主要施策として、インフラ・自動車分野とその融合領域での様々な技術革新と事業環境変化に対応することで、新たな目標も確実に達成してまいります。これを支える基礎となるのが人材です。海外子会社を含めた将来の経営人材候補の計画的な育成に取り組み、グループ横断的な人材開発を行うことで、当社グループがグローバルに成長し続ける体制を築いていきます。

### 2020年度の新財務目標値

	従来目標値	新目標値
連結営業利益	400 億円以上	550 億円以上
親会社株主に帰属する 当期純利益	200 億円以上	300 億円以上
ROE	8%以上	10%以上

## 技術革新がかつてないスピードで進んでいます。 どのように対応していきますか？

AI（人工知能）、5G（第5世代移動通信システム）、自動車のCASE化（Connected、Autonomous、Shared、Electric）など、これまでの産業のあり方を大きく変えるような技術のうねりを感じます。通信インフラのスマート化、エネルギーインフラの多様化、自動車のグリーン化の領域、そして、それらの融合領域で事業機会が急速に広がっていくと見ています。例えば、再生可能エネルギーの活用、加えて系統安定化のためには蓄電技術や情報通信技術が必要になりますし、自動運転化のためには自動車が情報端末化して情報通信と自動車が融合する、といった事例も生まれてきます。

当社は134年に亘り、「エネルギー・情報・熱」を「伝える・繋ぐ・蓄える」技術で人や社会基盤の健康を守り、成長を支えるために製品・サービスを生み出してきましたが、まさに、こうした技術力と経験値を最大限に生かし、今後の社会変革や技術革新に大きく貢献できる時代がやってきたと自負しています。当社にとって数多くのビジネスチャンスが拓けています。

しかし、様々な技術の融合領域で技術革新を生み出すためには、自前主義に拘るのではなく、オープン

イノベーションが必要です。このため、当社では、ゲストの方々との「共知」・「共感」・「共創」を通じて新たな革新を起こす場として、横浜の研究所内にFun Labを開設しています。また、産業技術総合研究所と共同して「カーボンナノチューブ電線の技術開発」を行ったり、本年2月より東京大学に社会連携講座「次世代の信号・電力伝達技術の創生」を開講し、当社の新素材技術に大学の学術的知見を融合させて新しい発想での事業開拓を目指す活動などを行っています。

### 近年、ESG経営（環境・社会・ガバナンス）が注目されていますが、これについてどのような考えをお持ちですか？

当社グループの基本理念は、「世紀を超えて培ってきた素材力を核として、絶え間ない技術革新により、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献する」ことであり、私たちは以前より、事業を通じて環境を守り、豊かでサステナブルな社会の実現を目指してきました。そして、当社自身が将来に亘り持続的に成長するためにも様々ななかたちでESG経営を推進しております。

例えば、環境に関しては、自動車用アルミワイヤーハーネスをはじめとした軽量化製品等の供給によるCO<sub>2</sub>排出量削減、グループ会社の古河日光発電（株）の水力発電による再生可能エネルギー活用、エネルギー収支を踏まえた省エネや太陽光発電利用の推進など、諸活動を通じて地球温暖化抑止に貢献しています。また、経営理念に掲げる「多様な人材を活かし、創造的で活力あふれる企業グループ」を目指して、「女性活躍推進に関する目標」の設定とその達成に向けた女性のキャリア形成支援の取り組みなど、多様な人材が活躍できる環境や風土作りを展開しています。こうした様々な取り組みを支えるコーポレートガバナンスについては、当社にとって最も重要な経営基盤と位置付け、コーポレートガバナンスに関する基本方針の制定、取締役会の実効性向上のための毎年の評価実施と結果の開示、社外取締役の増員など、その強化に向けた取り組みを強力に推進しています。

更に、まだ検討の緒に就いたばかりですが、2015年に国連で採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」を意識した取り組みを着実に進め、地球規模の環境・社会問題等の解決に貢献するとともに、長期的なビジョンを持ってビジネス機会の拡大を図っていきたいと考えております。当社としては、SDGsのテーマのうち、例えば「持続可能な近代的エネルギーへのアクセス確保」、「情報通信等を含む強靱なインフラ構築」、「持続可能な生産消費形態の確保」などにおいて貢献できるのではないかと考えております。

今後は、当社グループの事業や製品とESGとの結びつきを明確にし、具体的な取り組みについて情報発信を強化します。更に、経営戦略との一体化を図り、投資家はもとより様々なステークホルダーの方々との対話を通じて、企業価値の向上に努めてまいりたいと考えています。

### 最後に、持続可能な企業であり続けるために大切なことは何でしょうか？

古河グループの創業者である古河市兵衛は「従業員を大切にせよ、お客様を大切にせよ、新技術を大切にせよ」と言っておりました。この「三つの大切」は持続可能な企業であり続けるために現在でも十分に通用する基本的な考え方だと思っています。この精神を堅持しつつ、事業活動の基本である安全・品質・コンプライアンスの徹底を図ることが企業存続の絶対条件です。その上で、社会の変化を広い視野で捉えてオープンなマインドで社内外の人々と議論し合う、新しい技術でお客様や社会が抱える課題を解決する製品・サービスを生み出す、お客様の喜びを自分の喜びとして「ワクワク」と働く、そして、自分たちが世の中に送り出したものに誇りと責任を持つ、こうした好循環を維持できれば、社会に不可欠な存在として持続可能な企業であり続けることができるのではないかと思います。

最後になりましたが、今後とも当社グループへの一層のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。